

# 武尊通信

ほたかつうしん  
第180号

群馬歴史民俗研究会

〒372-0033  
群馬県伊勢崎市  
南千木町 5226-12  
gunrekimin@gmail.com

(振替00340-1-14572)

2024.12.1 発行

## 「不平士族の反乱」と 群馬県出身戦没者

—靖国祭祀の視点から—

今井昭彦

筆者は太田市在住であるが、同市新田赤堀町（旧新田郡赤堀村）の赤堀八幡宮（旧村社）境内には、「関口弥三郎之碑」なるものが建立（明治一三年四月一七日）されている。関口は旧赤堀村出身で、近代「日本初の連隊」たる近衛歩兵第二連隊に所属し、明治一〇（一八七七）年三月八日、西南戦役（丁丑戦役）において、遙か遠い肥後国田原坂（熊本市）で戦死した。二四歳であった。激戦として名高い、熊本「田原坂の戦い」での官軍（政府軍）戦死者であり、近代内戦の戦没者（戦死者・戦病死者など）であった。

昭和戦前期に群馬県（以下、本県とする）が発行した『上毛忠魂録』（一九四〇）は、本県の戦没者に関する興味深い文献として貴重である。同書によれば、近代日本における「本県出身最初の陸軍戦没者」は、西南戦役前年の明治九年一〇月の九州「熊本の乱」、つまり「神風連の乱」での官軍戦没者であった。それは同一〇月二四日、熊本城址内の熊本鎮台砲兵營で戦死した、館林出身の砲兵軍曹大沼光雄であった。明治七年二月の「佐賀の乱（佐賀の役）」を始めとする、いわゆる一連の「不平士族の反乱」における戦没者である。大沼軍曹は、館林士族ではなく平民であったようだが、同乱での「本県唯一の戦没者」でもあった。また、徴兵令が布告されたのは明治六年一月であったから、大沼は「徴兵による本県初の戦没者」ともいえよう。大沼は他の官軍戦没者一二〇名以上と共に、東京招魂社（明治二年六月創建、遺骨なし、後の靖国神社）に合祀され、「国の神」となった。同社は戊辰戦役での官軍戦没者を祀るために創建されたもので、近代の「人神信仰」の典型となった。同社では、同八年二月の臨時大祭において天皇が初参拝し、以来、臣民を祀る同社と天皇との緊密な関係が構築されていく。一方で、新政府の廃刀令などに反発した、

### 《第一二八回 例会のお知らせ》

対面及びオンライン（Zoom）で開催  
します。

日時 二〇二四年十二月十五日（日）

午後二時～五時

会場 前橋市中央公民館五〇三学習室

（前橋プラザ元氣21 五階）

報告 大野 秀彰氏

「大正・昭和期における史蹟保存と建碑—名胡桃城址の保存活動を例に—」

青木 裕美氏

「戦国期東国における医家と地域権力」

申込

会場・オンラインいずれの場合も参加申込が必要です。参加希望者は、申込フォーム（左記URL、二次元コード、本会HP）に接続し、申し込みを行うか、TELまたはFAXでご連絡ください。



URL : <https://forms.gle/tP7wDsanNabFtq7A>

TEL/FAX : 0270 (32) 9070

旧熊本藩士の太田黒伴雄らの神風連反乱軍は賊軍（反政府軍）となり、太田黒以下の戦没者一二三名は東京招魂社の祭神から排除された。つまり、靖国（国家）祭祀の対象からは除外されていくのである。

そして最大の反乱とされるのが、既述の明